



33.8万人のデータに基づく
組織で働く成人の研究と教育開発

組織行動科学[®]

Organizational-Andragogy[®]

reQuest

リクエスト株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役：甲畑智康）は、「より善くを目的に」を掲げ、980社・33.8万人の働く人達のデータに基づいた組織行動科学[®]を基盤に、7つの研究機関からなる企業です。

組織行動科学[®]は組織で働く私達の思考と行動が「なぜ起こり・なぜ続くのか」を事業環境と歴史・経験から解明し、より善く再現する手段です。

Behavioral Robotics[®] (HOBiROA[®]) 総研

OrgLogLab[®] (組織論理学[®] 研究センター)

smart creative management[®]総合研究所

XR HRD[®] (AIAndragogy[®]) 研究センター

ABA Operations Research[®]センター

人的資本開発プランニング[®]センター

公共行動研究室[®]

33.8万人の行動分析を踏まえた最新レポート

- 継続の心理的報酬が人材の質を分ける : <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000170.000068315.html>
- 越境学習を成果に変えるための実践 : <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000168.000068315.html>
- 人が変われなくなっている原因 : <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000159.000068315.html>
- 学べない大人が生まれる理由 : <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000162.000068315.html>
- 人事を事業成果に変換する : <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000155.000068315.html>
- 上位5%は背景から考える : <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000150.000068315.html>

過去レポート : https://prtimes.jp/main/html/searchrhp/company_id/68315



Behavioral
Robotics[®]

1 | 対象 = ストック型産業の定義

ストック型産業は、既に存在する対象を扱い、対象ごとの個別性により条件が異なる。そのため、前例に頼れず、対応の度に判断が発生する産業です。例えば、

建設・住宅：リフォーム・リノベーション
 保守：設備・インフラの点検・修繕
 医療：患者ごとの診断・治療
 介護：利用者ごとのケア対応
 教育：学習者ごとの変容支援
 などが該当します。

2 | ストック市場の問題

ストック型産業では、対応のたびに前例では対処できない判断が発生します。

判断が熟練者に集中すると、判断件数が上限となり、対応能力は拡張できません。

対応能力の上限は、判断処理能力で決まります。

3 | 当社の解決原理

当社は、判断処理能力を設計・移転・拡張します。具体的には、

- ① 判断対象の整理
 - ② 判断構造の設計
 - ③ 判断手順の標準化
 - ④ 役割分担の設計
- により判断構造を外在化する。

これを基に適切な経験負荷を伴う実務設計による人材開発とAIによる判断再現支援を組み合わせ、ストックに必要な判断処理能力を組織に移転・拡張します。

その結果、対応能力の上限が拡張します。

4 | 独自性

通常支援：研修・意識改革・DX
 当社：判断構造そのものを設計
 対応能力の上限を規定する構造へ直接介入します。

研究基盤
 - 33.8万人 - 980社 - 7研究領域

から人材と判断移転の構造を解明。

※ 構造補足

左記4項目は人材開発やAIに直接作用するものではなく、判断構造そのもの（外在化内容）です。

当社モデルは、以下の三層構造で成り立っています。

判断構造設計
 ↓
 人材開発 + AI実装
 ↓
 判断処理能力拡張

経験負荷を伴う人材開発とは、外在化した判断構造を実務で運用できるようにする訓練であり、特に既に経験を有する人材は従来の判断様式が固定化しているため、新たな判断を、現業の中では再現できません。

そのため当社の人材開発は、アンラーニング（既存判断の解除）とリラーニング（新判断の再構築）を伴います。

生成AIによる判断再現支援とは、外在化した判断構造をAIに実装することを指します。

したがって左記4項目は、人材開発とAIの共通基盤となります。

5 | プロダクトモデル

当社は、**ストック判断処理能力の設計・移転・拡張を段階的に提供**。

- ① **構造診断**： ストック判断構造の可視化・制約分析
- ② **判断工程設計**： 分岐構造・判断手順・役割配置の設計
- ③ **実装支援**： 現場導入・役割移行・経験負荷人材開発
- ④ **組織展開支援**： 組織内展開・AI判断再現実装
- ⑤ **産業展開**： 他部門・他領域・他産業への適用

プロダクトは、診断・設計・実装・展開の複合モデルで構成され、判断処理能力の拡張段階に応じてご提供します。

7 | 競合比較

観点	他社	当社
介入対象	人材能力・意識・ITツール	ストック判断構造
介入レイヤー	行動・教育・システム	判断処理能力
アプローチ	研修・DX・コンサル	判断対象・構造・手順・役割の設計
人材開発	研修・OJT	経験負荷：アンラーニング・リラーニング
AI活用	業務ツール化	判断再現実装
目的	能力向上・効率化	対応能力上限の拡張
効果の上限	個人能力・IT性能に依存	判断処理能力の拡張に比例
本質	人・ツールへの介入	構造そのものへの介入

2026年2月25日

6 | これまでの技術蓄積

Phase1：住宅改修・建設領域でモデル確立

Phase2：保守・インフラ・設備領域へ展開

Phase3：医療・介護領域へ適用

Phase4：公共・教育・社会システム領域

最終形：ストック型産業横断モデル

8 | メッセージ

ストック型産業では、**対応能力の上限は判断処理能力**で決まります。

当社は、**この未解決領域である“ストック判断処理能力”を研究・設計・移転・実装する**企業です。

9 | お問い合わせ

request@requestgroup.jp

当社は、

ストック領域の判断構造を設計する企業。

新築・新設・新人・新規ケアではなく、
修繕・改修・再学習・再ケアを要する
ストック型生活基盤の産業化を
判断構造設計により推進します。

大人が安心して生きられる社会を目指し、
その安心を子供の安心へとつなぎます。